

令和6年度 シラバス

愛媛県宇和島東高等学校津島分校

教科	家庭	科目	保育基礎	単位数	2	学年	3	類型	ビジネスコース
教科書	保育基礎(実教出版)			副教材	保育基礎学習ノート(実教出版)				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点
				知	思	主	
1 学期	4	第1章 子どもの保育	1 保育の意義 ①保育とは ②保育の意義	○		◎	<p>学習のねらい</p> <p>人の一生をライフサイクルとしてとらえ、それぞれのライフステージにおいてどのような発達をしていくのかを考えます。 1学期は乳幼児の発達はめざましくすばらしいことを学びます。子ども用防災袋の製作にも取りかかります。 2学期は子どもの生活について特に食生活を中心に学びます。また、児童文化財にふれたり、伝承遊びを経験したりする中から、子どもにとって遊びとは何か、その意義は何かを考えます。 3学期は子どもをとり巻く環境について学びます。</p>
			2 保育の方法 3 保育の環境 ①保育者の役割 ②一人ひとりに合わせた指導 ①家庭での保育 ②幼児教育・保育の場	◎		○	
	5	第2章 子どもの発達	③子どもが育つ環境の変化と課題		◎	○	
			【保育園実習①】	○		◎	
			1 子どもの発達の特性 ①発育と発達 ②発達の共通性と個性	◎		○	
	6	第3章 子どもの生活	2 子どものからだの発達 ①発育・発達の評価 ②身体的特徴 ③生理的特徴	◎		○	
			3 子どもの心の発達 ①社会・情緒的な発達 ②知的発達 ③言葉の発達 【子どもとお母さんを学校に招待しよう】	○	◎	◎	
1 子どもの生活と養護 ①生活と養護 ②栄養と食事			◎		○		
7		期末考査	◎	◎			
		【離乳食作り】 【おやつ作り】		◎	○		
2 学期	8		③衣生活	◎		○	<p>学習の目標</p> <p>家庭総合の学習を基本として乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育に関する知識と技術を習得し、子どもかかわろうとする意欲や実際にかかることができる能力と実践的な態度を身に付けます。</p>
			2 生活習慣の形成 ①子どもの生活習慣 ②基本的な生活習慣	◎		○	
			③社会的な生活習慣	◎		○	
	9		3 健康管理と事故防止 ①子どもの健康管理	○		◎	
			②事故の防止と応急処置	○	◎		
			【知識・技能】		◎	○	
	10	第4章 子どもの文化	1 子どもの文化の意義と支える場 ①子どもの文化 ②子どもの文化を支える場		◎	○	
			2 子どもの遊びと表現活動 ①遊びと発達	◎		○	
			②遊びと表現活動 【絵本の選び方】 【読み聞かせ会】		◎	○	
	11		【児童文化財作成】	○		◎	
			”		◎	○	
			”	◎		○	
12	第5章 子どもの福祉	”	◎	◎	○		
		【折り紙講習会】	○		◎		
		【保育園実習②】		○	◎		
3 学期	1	2 子どもの福祉 3 子育て支援 ①子ども観の変化 ②権利の主体としての子どもへ	①児童福祉 ②子どもを取り巻く課題と対策 ③子どもが育つ社会	◎		○	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>乳幼児の発達の特徴や乳幼児の生活と保育などに興味をもち、子どもが健全に成長することを目標に意欲的に取り組んでいるか。</p>
			①子育て支援からパートナーシップへ ②社会的養護	○	◎		
			③地域の子育て支援	○		◎	
	2		学年末考査	◎	◎		
3							

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

【保育基礎の特色】

- 保育基礎では、乳幼児とふれあう学習や、授業での実習を通して、乳幼児の発育・発達の特徴、乳幼児の生活と保育などに関する知識や技術を身に付け、子どもの健全な成長に関心をもち、関わろうとする意欲や実際に関わることができる実践的な能力を育てることを目標としています。

【授業】

- 座学では教科書を中心に、乳幼児の発育や発達の特徴などの基礎知識を身につけていきます。配布されたプリント類はもれなく記入し、すべてノートに貼りましょう。特に自分の考えを述べる欄にはしっかりとした意見が書かれてあることが望ましいです。
- 保育人形を用いた実習によって、抱っこ、おんぶ、沐浴、衣服の着脱などの養護に関する基礎技術を身につけていきます。積極的に参加し、考察や感想をきちんと記録しておきましょう。
- 子どもの食生活の学習では、調乳、離乳食、幼児食の実習を通して正しい食生活のあり方を学びます。常に保育者の目線で子どもの食生活をとらえましょう。
- 子どもの遊びの学習では、布絵本の制作や読み聞かせなどを行って児童文化財に触れたり、手作りおもちゃの製作を通して子どもと遊びの関係を学びます。積極的に実習に取り組みましょう。
- 認定こども園訪問等に参加することにより、実際に乳幼児や保育士の方々とふれあって、子どもと関わる仕事の意義や子どものあるべき姿を認識できるようにします。

【家庭学習】

- 日頃から乳幼児とふれあう機会をもって、子どもに対する興味・関心を高めておきましょう。また、保育者としての立場にも目を向け、親や自分の周りの人々と積極的に関わりをもつようにしましょう。

【定期考査】

- 各学期末に1回実施します。教科書や学習ノートから、乳幼児の発育・発達の特徴、保育に関する知識について出題します。試験範囲の教科書や学習ノート等を見直して復習しておきましょう。
- 子どもや保育に関する文章や新聞記事に対する意見を問う問題も出題します。日頃から時事問題に興味をもち、自分の考えをまとめておきましょう。

◆評価の方法、基準

評価の方法	定期考査、授業や実習への出席状況及び学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を①知識・技能②思考・判断・表現③主体的に学習に取り組む態度の三つの観点から評価します。	
評価の基準	1 学期	期末考査(①②の観点から評価します。)授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。)課題提出とその内容(主に②③の観点から評価します。)ノートの整理状況等(主に③の観点から評価します。)
	2 学期	期末考査(①②の観点から評価します。)授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。)課題提出とその内容(主に②③の観点から評価します。)ノートの整理状況等(主に③の観点から評価します。)
	3 学期	期末考査(①②の観点から評価します。)授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。)課題提出とその内容(主に②③の観点から評価します。)ノートの整理状況等(主に③の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均をもとに評価